

第1回

松戸市居宅介護支援事業所連絡協議会勉強会

「～ケアマネ業務におけるコロナ対策として～」

【日時】 令和2年8月29日（土）14時～16時

【場所】 松戸市商工会議所 5階 大会議室

コロナ禍の中ですが、感染予防対策を徹底しながら、思い切って第1回勉強会を開催いたしました。参加者を50名に絞り、事前体調チェック、当日の検温、アルコール消毒、座席の距離を取り、フェースシールドを使用していただき、これまでにはない緊張感もありました。今皆さんにとっての一番の不安が少しでも解消され、何かをつかんでいただけたならとてもうれしいと思っています。

今回は、先生のお話の中から、私なりに心に残った「言葉」を思い出し、まとめてみました。一つ一つの言葉をどう受け取るかは人によって違う事もあるかもしれません。今は、今までやってきた・・・ではなく、今までの固定観念を壊して、考えていく事が必要なのではないかと思います。

今回の研修でたくさんの事を学ばせていただきましたが、私が心に残ったいくつもの言葉の中で、2つ挙げてみました。



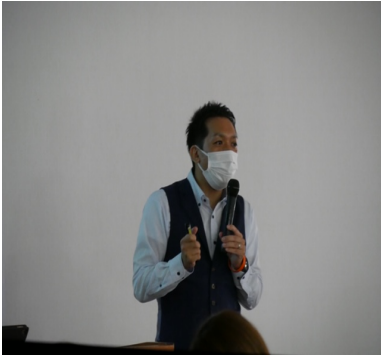
「固定観念からの脱却」



「完璧を目指すよりもまず終わらせろ」

心の中で大きくうなずいた言葉でした。

●宮崎直樹先生ご紹介●



介護屋みらい 宮崎直樹先生

介護屋みらいの代表取締役。江戸川区と船橋市に居宅介護支援事業所を経営。ケアマネージャーを紡ぐ会の代表、船橋市市議会議員としてもご活躍です。

現役ケアマネとして担当件数もこなしていらっしゃいますので、私たちと同じ目線でわかりやすい身近な講義をしてくださいます。

現役ケアマネが話す！！

「ケアマネ業務におけるコロナ対策」

ケアマネ自身の仕事の仕方でも変化が必要
新しい生活様式・・・今までの常識が非常識になる

◎漠然とした不安

自分自身が感染媒体にならないか・・・
自分が感染したら・・・
自分の家族が感染したら・・・
事業所が閉鎖したら・・・

◎業務的な不安

独居の方が怪しいときに誰が保健所に連れていくの？私？
介護者が罹患したら・・・
支援を依頼していた事業所が閉鎖したら・・・
家族や事業所から支援拒否を受けたら・・・

いつ職場内でコロナ感染が起きても揺るがない
体制を構築する



コロナに罹っても、運営基準減算がなく、上司や同僚に出
来るだけ負担をかけないような体制を作る

⇒ **なぜ**自分が感染したら不安なのか・・・？



業務が遂行できなくて、運営基準減算になるのではないか
他の人や利用者さん、ご家族に迷惑をかけるのではないか

⇒ **なぜ**事業所が一時閉鎖したら不安なのか・・・？



会社が倒産するのではないか

なぜ・・・に向き合う

向き合って対策を考える

できることは何かを考える

不安を解消するには、向き合って対策をすることが一番

逃げたって変わらない

悩んだって終わらない

やるしかない



💡 明日コロナになってもいいように業務は先に勧
ておけば、運営基準減算がなく、上司や同僚にできる
だけ負担をかけないようにできる
一人ケアマネの場合は特に対策を!



例えばコロナ感染症の濃厚接触者で2週間
自粛となったら

モニタリングを22日くらいまでに終わらせて
おけば、次の月の半ばで自粛が解けて当月も
モニタリングができる為、問題ない。モニタリ
ングを残してしまうと、他の人や事業所、利用
者などに迷惑をかけてしまう。



成功者を徹底的にパクる

「完璧を目指すよりもまず終わらせろ」

マークザッカーバグより



多くの仲間を作る 仲間と一緒に考える

・ ・ ・
協議会への入会や、研修会への参加をしましょう



提供表の手配りはいい事だらけ



固定観念からの脱却が必要

グループワークで、訪問は月半ばから月末にかけてするものという固定観念が多いように思いました。



介護保険法をもう一度勉強しましょう

今後、こんなテーマの勉強会も必要かもしれませんね～



身近で興味深いお話で、あっという間の2時間でした。マスクでお顔が見えないのが残念です。

グループワークの様子です。皆さんフェースシールドを着用しています。



介護保険課専門官 横山英俊様が来賓として来てくださり、ご挨拶を頂きました。

